

構想の実現状況等（概要） ※得られたアウトカムを含む構想の実現の観点から記載すること【1 ページ】

【I. 事業全体の取組について】

本事業において、本学では「日本が、保健医療分野において、世界規模での健康レベル向上にむけて、経験/実績を踏まえて貢献し、世界とともに発展的存続を実現するために中心となる、グローバルヘルス推進人材を育成する」を構想目的とし、目的達成のための取組として「ガバナンス体制強化/教学マネジメント改革」を行い、「教育改革」および「海外拠点を活用した積極的な教育研究展開」を推進してきた。以下にその実現状況等の概要をまとめる。

●**ガバナンス体制強化/教学マネジメント改革**：学長のリーダーシップの下、2016 年に入学者選抜、教養教育、学部教育、大学院教育及び生涯教育までの一貫した全学的な教育方針並びにポリシーに準拠したカリキュラムの策定を支援し、継続的な質改善を行うことにより、国際水準を超える教育を展開する統合教育機構を設立するとともに、全学的なグローバル化を推進・支援する統合国際機構を設置して本取組を強力に実行するガバナンス体制を整えた。また本事業にかかる目標を第3期及び第4期中期目標/中期計画へ反映したうえで、統合教育機構教学 IR 部門及び全学 IR 事務室において、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーに基づく体系的で組織的な教育の展開、成果の点検・評価を行い、教育の質の向上に向けて不断の改善に取り組んだ。

●教育改革：

【学士課程】本学が求める学生像を明確化し、統合教育機構を中心にポリシーの見直しやカリキュラム改正を実施した。入試改革においては国際バカロレアによる入学枠設置、多面的な入試を行うなど、国際通用性を有しグローバルに活躍できる医療人材を獲得できるための取組を進めた。2013 年度には完全英語履修のリーダー養成選抜プログラム Health Sciences Leadership Program (HSLP) を開講。医学・医療分野のグローバルリーダーに必要な資質である問題解決力、批判的/創造的思考力、リーダーシップスキル等を有するグローバル人材の輩出を推進。新型コロナウイルス感染症拡大時には、オンラインによる国際交流への素早い切り替えにより、学生の学習や国際経験の機会を創出し続けた。海外への留学が再開した以降もオンライン教育・交流を継続することで、コロナ禍以前よりも多くの国際交流の機会の提供や効果的なオンライン教育を継続している。

【修士/博士課程】コースワークの英語化（2023 年度開設科目の 67.7%が英語履修可能）、外国語のみで卒業できるコースを増設した（2023 年度は 16 コース）。教育理念の 1 つである「国際性豊かな医療人の育成」に基づき更に取組を推進させた結果、2016 年 4 月にはチリ大学、同年 8 月にチュラロンコン大学（タイ）と、2020 年 4 月にはマヒドン大学シリラート病院医学部（タイ）との間でジョイント・ディグリー・プログラム（以下、JDP）を開設し、JDP 全体で、14 名の修了生を輩出した。国際的な教育研究活動を世界の大学と展開することで国際性豊かな医療人の育成を推進した。さらに 2018 年度には修士課程に完全英語履修のグローバルヘルスリーダー養成（MPH）コースを新たな学位プログラムとして開設し、これまで 38 名の修了生を輩出した。世界各国から多様な学生を受入れグローバル人材の育成に取り組んだ。

●**海外拠点を活用した積極的な教育研究展開**：学生が渡航して海外研究実習を行うなどグローバル人材を育成するため、また教員が国際共同研究・交流を行う場として既存 3 拠点（ガーナ・チリ・タイ）を活用することで教育研究活動を展開し、本学の教育研究環境の国際化や国際通用性/認知度/国際競争力を向上させた。拠点未設置の欧州・豪州・北米地域への拠点設置を目標に海外拠点の在り方検討会を設置し検討を開始している。

上記の各取組を着実に実行しつつ、共通/大学独自の成果指標および達成目標に関して計画どおり概ね実施し、外国人教員等増数や職員の英語力、本学の国際通用性、認知度、国際競争力を向上させることで構想に掲げた世界とともに発展的存続を実現するための中心となるグローバルヘルス人材を育成、輩出することができたと考える。なお、財政支援期間終了後の自走化に向けては、財政基盤の強化を図り、中期目標への反映や、国際競争力の向上（研究力強化）及び国際通用性強化（国際化）を組織文化として浸透させるための仕組みを構築してきた。

【II. 事業期間での大学の成長（アウトカムとの繋がり）】

上述した「ガバナンス体制強化/教学マネジメント改革」、「教育改革」および「海外拠点を活用した積極的な教育研究展開」の推進により、「コミュニケーション能力、問題解決能力、リーダーシップスキルなどを持ち、医歯学の様々な分野での活躍を通してグローバルヘルス推進への貢献を志す学士の輩出、様々な国地域において、医歯学の様々な分野における研究/教育や国際機関/政府機関/私的機関での活躍によりグローバルヘルスの推進に貢献する人材（修士/博士）の輩出」という初期アウトカムが達成された。具体的に本事業期間での成長は構想調査で掲げた大学独自の成果指標及び成果目標の達成度から顕著に読み取れる。①**学士課程卒業生に占める海外経験者の割合**：医学科：採択時には 33.3%だったが、終了時には 64.22%、歯学科：12%から 22%、保健衛生学科：7%から 9%とコロナ禍の影響がありつつも着実に増加し、学生は国際経験をとおして、キャリアの多様性を認識し、国内外のネットワークを広げることができた。学生の海外経験を促進することで、グローバル化が進む社会において医学・歯学・その他医療分野で国際的に活躍する人材の養成が進んだ。②**HSLP 履修者数**：採択時は 20 人であったが終了時は 268 人と増加。現役生/アラムナイの動向調査では 9 名がサンガレン国際会議に参加、4 名が MD-PhD コースに進学、9 名が学生団体やスタートアップ企業等を設立している。これまでに卒業生 2 名が米国での臨床研修を開始、ほか卒業生の 1 割強が医療政策・国際医療分野でのキャリアを構築しつつある。医学・医療分野のグローバルリーダーに必要な資質を備える人材の輩出が進み、さらに彼らが学年・学科専攻・在学生・卒業生の枠を超えてお互いに刺激あい、支えあうコミュニティが構築された。③**全大学院生に占める外国人留学生の割合**：採択時には 13%だったが、事業終了時は 23%に増加。多様な文化的背景を持つ外国人留学生が日本人学生や研究者とともに学び、研究を進めることで、学内教育研究環境の人種/文化背景の多様化およびグローバル化が進んだ。④**新設するグローバルヘルスリーダー養成コース（修士/博士課程）履修者数**：アジア/北米/南米/ヨーロッパ/アフリカ等、20 超の国/地域から外国人留学生を受け入れており、修了後は博士課程進学やアメリカ、ベルギー、デンマーク、アフリカ、東アジア地域など世界各国に本社を置く外資系製薬企業、さらに国境なき医師団や医療機関等で活躍している修了生も数多くいるなど世界の様々な国地域において活躍する多くのグローバルヘルス推進人材が輩出された。本学は医療系大学であり、日本の国家試験を全学生に受けさせるという制約やコロナ禍の影響があるにもかかわらず、本構想で掲げていた目標を概ね達成し、10 年間の努力により多くのグローバルヘルス推進人材を世界に輩出し、世界的な教育研究拠点としてインパクトを与える大学へと成長し、着実に成果を上げたと考える。これら成果により今後は「アジアにおけるグローバルヘルス推進人材育成/研究拠点としての地位を確立」「グローバルヘルス推進に取り組む国内外機関と強固なパートナーシップ・ネットワークを形成し、様々な国・地域における課題克服のため研究/教育/医療の全チャネルを開き貢献」といった中長期アウトカムが実現されていく。

2024 年 10 月の東京工業大学と大学統合後、医工連携のコンバージェンス・サイエンスの創出・追求、事業成果の横展開を図りながら、研究力の更なる強化、国際協同研究/産学連携の推進、優秀な大学院留学生の獲得、そして組織的な認知度/評判向上のための取組を推進していく。

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1 ページ】

【I. 事業全般について】

●グローバルネットワークの活用や海外拠点活動拡大等による国際性豊かな医療人の育成

『国際性豊かな医療人の育成』という教育理念の下、世界的な教育研究拠点を目指し、本学の国際競争力の強化を推進した。海外教育研究協力拠点の拡充/拡大にあたっては3拠点（ガーナ・チリ・タイ）に加え、拠点未設置の欧州地域・豪州地域・北米地域への新たな拠点設置を目標に、「海外拠点の在り方検討会」を立ち上げ、新たな拠点の検討を進めてきた。2023年度からは東京工業大学との大学統合を見据えた構想とするため、双方の教員からなる国際戦略に関するワーキンググループを新たに設置し、既存拠点や新規拠点の方向性を整理している。さらに、インペリアル・カレッジ・ロンドン（ICL）をはじめとした拠点候補校との積極的な研究交流を実施するとともに、2023年度から2024年度にかけて、米国のイリノイ大学アーバナ・シャンペーン校（UIUC）との間で世界各地の一流大学や企業、政府機関等が加盟するグローバルコンソーシアム設立に係る協定書を締結したことで、今後のグローバルネットワークの形成や、北米地域との連携及び海外拠点の拡大に繋がることが、期待される。

2016年4月にはチリ大学、同年8月にチュラロンコン大学（タイ）と、2020年4月にはマヒドン大学シリラート病院医学部（タイ）とのジョイント・ディグリー・プログラム（以下、JDP）を開設した。チュラロンコン大学とのJDPでは8名、チリ大学とのJDPでは3名、マヒドン大学とのJDPでは3名の修了生をそれぞれ輩出している。JDPにおいて組織的・継続的に海外教育機関との連携を構築することにより、グローバルな視野・立場で医学・歯学の発展のために活躍する国際医療人材が育成された。

また、第一線で活躍する研究者に対しTMDUグローバルフェローとして称号付与・関係形成を推進するグローバルフェロー制度を発足した。本学の学生/教員等が世界的な研究の第一人者と交流し国際性を養う機会を創出（2022～2023年度で講義計4回、研究アドバイス計5回実施）し、グローバルネットワークを活用した研究教育体制の整備を実現している。

●グローバルヘルスリーダー養成（MPH）コース・グローバルヘルスプロフェッショナル（GHP）コース開設（いずれも完全英語履修）

構想計画どおり、2018年4月に大学院医歯学総合研究科修士課程医歯理工保健学専攻に、完全英語履修の学位プログラムとなるグローバルヘルスリーダー養成（MPH）コースを開設し、2023年度時点で累計56名が履修、38名の修了生を輩出している。修了後は博士課程へ進学してグローバルヘルス研究を継続する者が多いが、アメリカ、ベルギー、デンマーク、アフリカ、東アジア地域など世界各国に本社を置く外資系製薬企業、さらに国境なき医師団や医療機関等で活躍している修了生も数多くいる。本コースの開設により、様々な国地域においてグローバルヘルス研究/教育や国際機関/政府機関/私的機関での活躍によりグローバルヘルスを推進する人材を輩出するというアウトカムの達成度を高めている。2020年4月には博士課程グローバルヘルスプロフェッショナルコース（GHP）を開設し、2023年度に初の修了生を1名輩出している。

●グローバルリーダー養成選抜プログラム Health Sciences Leadership Program（HSLP）

生命科学研究・国際保健/医療政策・医療産業分野においてグローバルな舞台でリーダーとして活躍し、変革を生み出すことのできる人材を育成するために、完全英語履修のリーダー養成選抜プログラム Health Sciences Leadership Program（HSLP）学士課程版を2013年度に開講。2023年度末時点でフルメンバー129名、アソシエイツ65名が履修している。HSLP履修者は在学中15%、卒後も含めると33%が、国際誌に筆頭著者として英語論文掲載にいたっている。卒業生も含めたフルメンバー129名のうち3名がG7/G20 Youth Summitsに参加、9名がサンガレン会議に招待された。アラムナイ向けの調査でも、ソフトスキルの獲得/英語力向上/問題解決能力が身に付いたことが挙げられている。本プログラムにより、医学医療分野のグローバルリーダーに必要な資質を備える人材の輩出が進み、学年・学科専攻・現役/アラムナイの枠を超えてお互いに刺激し支え合うコミュニティが構築された。2016年度には修士/博士課程版プログラムを開講し、毎年、平均で50名程度が新規履修を開始してきた。

【II. コロナ禍への対応について】

●遠隔授業支援・アクティブラーニング推進

感染拡大当初から統合教育機構内に「遠隔講義支援チーム」（後に「教育開発チーム」として強化再編）を組織し、対面同期・遠隔同期・非同期の全ての授業形式で効果的なアクティブラーニングや少人数教育が実施されるべく全学的な支援体制を構築した。それにより、双方向型のウェブ会議システムや学習管理システム（LMS）を利用した授業が浸透し、これらを活用した反転授業を積極的に導入した。オンデマンド型授業での事前学習により、その後に展開される対面授業や遠隔授業では、ディスカッション等のアクティブラーニングに注力した、より発展的な授業が可能となった。感染拡大が収束するにつれ、対面授業が再開されていったが、キャンパス内に病院があるという特性上、継続して学内の感染対策を講じるため、対面と遠隔で受講する学生に対応したハイフレックス型授業を取り入れ、授業の到達目標に応じた授業方式を選択可能とした。2022年度には教員研修（講義系科目/担当教員は必修）を開催し、アクティブラーニングの効果的な活用方法の情報提供や教育に関する全学理念・方針の普及を主導するとともに、教員の教育力向上に努めた。これらの取組により、感染症対策下でも効果的な学びを提供し、学生のさらなる知識定着に寄与している。

●海外留学機会拡大・留学支援

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため海外渡航等が大きく制限される中、多様なオンライン国際交流プログラムを充実させる方向に素早く切り替え、特に学部学生においては、感染症拡大時でも国際的視野獲得や海外ネットワーク構築の機会を提供することができた。2023年度には感染拡大が収束に向かい、コロナ禍前とほぼ同等の海外派遣が実施できており、さらには感染拡大時に新設されたオンライン国際交流プログラムも一部併存し、学生へより多様な海外経験の機会を提供できている。

学部・学科	取組概要 例
医学部医学科	2021年度：プリンセスチュラボン大学（当時）とオンライン国際交流プログラムを通じて交流。
医学部保健衛生学科	2020年度及び2023年度：ワシントン大学、セイナヨキ大学等とのオンラインプログラム（5日間）を開催。
歯学部歯学科	2021年度：2年次（Lv.1）、4年次（Lv.2）、5年次（Lv.3）が海外大学の学生と交流を深めながら英語で歯学知識を学ぶ1か月程度の国際オンライン交流プログラム「International Course for Clinical Dentistry（ICCD）」を設置。感染症収束後も2023年度入学者の標準選択科目として継続。
歯学部口腔保健学科	2020年度及び2023年度：台北医学大学との交流プログラム（3日間）を開催。